

## 活用してください

### 農業を応援する制度

機械や家畜の導入、農地取得など、農業者の経営を応援するため、いろいろな資金があります。農業経営の合理化や改善を図るため、最も有利な資金を活用してください。

資金の種類により、借入れの要件が異なります。また、借入れの際には、融資機関などによる審査がありますので、借入れを希望する人は、事前に必ず窓口へ相談してください。なお、他にも状況により利用できる資金がありますので、詳しくは問い合わせてください。

#### 問合先・相談窓口

- J A 伊万里金融課 (☎ ②3 5556)、日本政策金融公庫 (☎ ②3 5527)
- 林務省農政課 (☎ ②3 5128)、農業振興課 (☎ ②3 2557)

## 秋の火災予防運動

11月9日(土)～  
11月15日(金)

火の元には十分注意してね!



防火キャラクター  
キュートくん

#### ● 重点目標

- ▷住宅防火対策の推進
- ▷放火火災防止対策の推進
- ▷地域における防火安全体制の充実

#### ● 期間中の行事

- ▷消防署・消防団合同の消防演習  
11月10日(日)午前9時～  
松浦町桃川(親水公園)
- ▷初期消火競技大会(市内事業所)  
11月11日(月)  
午後1時30分～  
消防本部訓練場
- ▷防火ポスターおよび防火書道展  
11月12日(火)～17日(日)  
市民図書館
- ▷サイレン吹鳴  
火災予防運動期間中の午後9時  
※家庭の火の元を点検してください。
- 問合先 予防課火の用心係  
(☎ ②3 2118)

### 農業を応援する制度

#### ◆◆ 低利な融資制度のうち主なものを紹介します ◆◆

◎制度資金の資格や条件などは、代表的な事項のみ掲載しています。

資金名	貸付対象者	貸付対象事業				貸付利率 (%) H25.9.19 現在	償還期間 (年以内)	貸付限度額
		農地 取得	負債 の整理 ・借り換え	施設・農機具の購入	長期運転・経営資金 家畜の導入・育成			
農業近代化資金	認定農業者	○	○	○		0.55～1.05	15	個人1,800万円 法人2億円
	その他	○	○	○		1.20		
農業経営基盤強化資金(L資金)	認定農業者	○	○	○	○	0.55～1.20※	25	個人3億円 法人10億円
	エコファー マーなど	○	○	○		無利子		
農業改良資金	認定就農者 (青年)	○	○	○			12	個人5,000万円 法人1億5,000万円
	認定就農者 (中高年)	○	○	○		無利子		
就農支援資金	認定就農者 (中高年)	○	○	○			7	3,700万円 2,700万円

※一定の条件を満たせば、貸付から5年間は『無利子』となる場合があります。

#### 大連の教育事情

このコーナーでは隔月で、韓静さんから見た伊万里や大連市の文化・風習など、皆さんに紹介していきます。

#### 韓静リポート⑤

中国大連市  
公務研修生



中国の教育制度は、日本とほぼ同じ『6、3、3制』です。義務教育は6歳から9年間で、高級中学校3年間と大学4年間は、本人の希望で進学を決めます。日本と大きく異なるのは、特別に優秀な人材(エリート)を育成するため、中学から大学までのそれぞれに『重点校』制度があることです。エリートになるための最難関は、大学への進学です。大学に入るために、毎年1回、6月に『全国統一試験』を受験します。重点大学の頂点が北京大学、清华大学といった名門大学です。大学や重点大学へ入学することには、まず良い中学校が先決で、子供たちはそれぞれの重点校をめざしてからしのぎを削ります。しかし、一人っ子時代であつて、高学歴が人生で成り立つた名門大学です。

△ 韩 静 (カン セイ)  
△ 1966年遼寧省大連市中山区生まれ 47歳  
△ 所属 大連市公安局出入  
境管理局(出入国の査証、  
パスポートなどの管理)

△ 家族構成 夫、娘1人  
△ 新しい教育システムを模索する中国の課題だといえます。

功するための重要なパートとなれば、親が子供の教育にかける情熱はいやがうえに高まることになります。特に都市部では、たいていの親たちは教育パパ・教育ママで、その熱心さは日本の比ではありません。親たちは子供のために、どんな投資でも惜しまないのです。子供に家庭教師をつけることは、都市部では普通のことで、謝礼は、重点校の先生になると1時間800元(1000円以上)というものが大連の相場です。一人当たりの費用は、1か月1500元前後にのぼり、平均的な労働者の月収並みと言われています。

中国政府は、1990年代後半以降、従来の『受験教育』から『資質教育』へ転換するため、小・中学校における教育改革に取り組んでいます。しかしながら、子どもたちは、受験のために塾に通い、必死に勉強しています。これは、新しく教育システムを模索する中国の課題だといえます。